

MaaS 及びインバウンドの視点でみた「見えバス」

株式会社マネジメントシステム、鳴原 育子

<http://www.msio.co.jp/>、shigi@msio.co.jp

はじめに

最近、記事やニュース等で増えているのが公共交通の連携・統合である。特に、MaaS (Mobility as a Service :「マース」) は、目にする機会が増えている。MaaS とは、移動サービスの連携・統合の構築であり、公共交通にとって連携・統合は新しい取り組みと言える。また、MaaS では、公共交通が誰でも使えるということがポイントであるためインバウンド対策も必須であると筆者は考える。

1. MaaS の特徴

図 1 は、スウェーデンのチャルマース工科大学の研究者が提唱する MaaS における階層別レベルである。レベル 1~4 にサービスの内容を段階的に表すことで、MaaS のサービス内容を理解しやすくしている。多数の企業が提供するサービスの API を集結することがスタートとなり、最終的には API の利活用を行うことで、一つの新しいサービスを提供することが可能となっている。もちろんこれは、MaaS の将来のあるべき姿であり、最初から多数の企業の提供するサービスを統合することは困難ではある。しかし、最初に行う情報の集結は大変、重要な入口になると考えられる。



図 1 MaaS 階層別レベル

2. 「見えバス」の MaaS 的要素

ワンタッチでバスの現在位置がわかるスマホ向けの新バスロケーションシステム「見えバス」は開発の過程で、この MaaS 的な考え方を取り入れてきた。その要素を次に示す。

- ① 一部の公共交通という限られたデータではあるが、複数のバス会社の情報を共有するように作られている。
- ② この場合の公共交通データとは、路線バス・コミュニティバス・高速バス等の乗合バス情報、及び、鉄道・路面電車・モノレール等の軌道系移動手段を示す。
- ③ 近年、公共交通にタクシーやバイクシェアも含まれるようになった。「見えバス」はこれらのデータ統合は行っていないが、サイト内からリンクで繋がれるのが特徴となっている。
- ④ 公共交通利用は、目的地への移動手段である。であれば、目的地の情報も得られることも重要と考え、「見えバス」から地域情報もリンクできるようにしている。
- ⑤ 例として挙げるならば、お店情報や観光情報、観光ルートなどがそれにあたる。
- ⑥ 市民の必要な情報としてその地域の自治体情報なども繋がられる。

3. 公共交通と見えバス

図 2 は、上段の左からバス情報、鉄道情報、タクシー情報を示しており、バス情報と鉄道情報はすでにデータ統合が可能となっている。タクシー情報は、タクシー会社への連絡先及びタクシー乗り場等を表示するサイトである。こちらは「見えバス」とはリンクで繋がっている。

下の段はドコモのサービスの、AI バスとバイクシェアを例として挙げているが、他の企業サービスでも繋げることは可能である。「見えバス」は他のサービスへリンクする機能があるからであ

る。

「見えバス」の特徴であるこれらの機能により、MaaSの初期段階は達成できると考えられる。

4. 地域情報ポータルサイトと見えバス

図3は、地域の色々なポータルサイトと「見えバス」とを、連携したイメージである。例として、地域の観光協会のホームページをそのままリンクし観光情報を提供した事例、同じように観光モデルコースを提示しているホームページをリンクした事例、該当する自治体のホームページをリンクした事例を示した。また、地域のお店紹介として、今回はDショップを例として掲げ事例としたが、地元の情報サイトを幾つでも繋げることが可能である。基本的にURLを登録してリンクする機能であるため、URLがついたWeb上に存在する情報はすべて「見えバス」から連携することが可能となるのである。

全てのデータを統合するという論理には程遠い繋がりではあるが、「見えバス」を『地域のハブ』とするという考えに基づき、その地域のあらゆる情報を一つに繋がられるよう開発している。これは、MaaSの初期段階として重要な考え方である。公共交通だけでなくあらゆるデータの統合を考えると、最初は個々の情報を集結することから始めるとやりやすいと考える。その際「見えバス」をハブ的に使ったシステムの構築は、MaaS構築の第一歩になると確信している。

5. インバウンドとしての見えバス

図4は、「見えバス」の英語版の表示である。「見えバス」の特徴は、『いつでも、どこでも、誰でも、ワンタッチで自分の位置周辺のバスが表示される』というものであるため、「アイコンをタッチするだけ」と容易な操作にした。そして、この操作は「見えバス」のコンセプトは、『①急いでいる人でも、②高齢者でも、ワンタッチでバスの位置がわかる』から考慮し、たどり着いた結果であり新しいバスロケーションシステムとなった。そしてこの特徴は、日本語を理解できない外国人にとっても容易に操作ができるという副産物をもたらした。つまり、操作性を容易にするということは言語の壁やその地域を初めて訪れた人にも、バスに乗るチャンスを提供することができるということを発見した。

おわりに

「見えバス」のサービスは始まったばかりではあるが、このサービスが全国津々浦々に広がった先に日本版MaaSの姿が明らかになると筆者は考えている。しかし現在「見えバス」のサービスは、2地域、3バス事業者での提供となっているため、本来の「見えバス」が持っているMaaS機能を十分に発揮することができていないのが残念である。将来に期待したいところである。



図2 MaaS（移動体サービスの連携・統合）交通編



図3 地域情報ポータルサイト

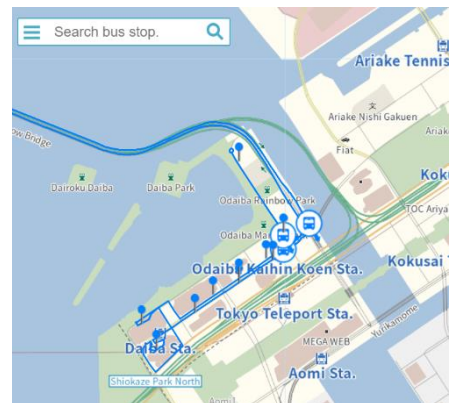


図4 「見えバス」の多言語表示